

カメラ付き携帯電話を利用した野外活動

神戸大学発達科学部附属住吉小学校 山本 智一 黒田 秀子

1. 概要

生活科や理科の学習で取り組まれるフィールドワークは、個人やグループに分散して行うことが多い。そこで、フィールドワークにおいてそれぞれが集めてきた情報を共有するために、ITを利用した学習支援を行っている。授業実践の中でカメラ付き携帯電話やWebを利用することで、子ども同士の情報交流やその共有化を容易にし、意欲的な取り組みが行われている。

2. 実践授業

2年生生活科「季節みつけ」:それぞれの季節ならではの対象を撮影・送信し、そのデータをWeb上で共有し、交流を行った。さらに、撮影した写真を利用し「おすすめの紹介」「図鑑作り」へと進展した。また、日々の実践として、「今日の大発見」「サツマイモの観察」「ヒヤシンス、クロッカスの観察」など、継続的に取り組んだ。

5年生理科「土石流を防ぐ知恵にせまろう」:住吉川の上流部と下流部を手分けして撮影し、Web上で情報を整理し、災害を防ぐ工夫について話し合った。送信したデータには簡単な文字情報の付加、班や地点での検索なども行い、「住吉川の工夫マップ」作りに利用した。

3. 子どもの変容

- ・取材活動で得た発見や気づきは、Webページを見合うことで、個人のものからグループや学級で共有できる情報となった。
- ・1枚の写真を手がかりに話題を広げたり共通点や相違点を見いだしたりした。
- ・取材経験が増すごとに、他者を意識するようになった。
- ・自分の伝えたいことについて、対象に向かう視点が多様化された。
- ・発見や気づきをより正確に視覚的に伝えることができた。
- ・継続観察において観察の視点が明確化された。
- ・Web上の記録の蓄積は、活動意欲を促進した。



図 システムのインターフェイスと学習活動の実際